「校内研修プログラム」
研修シート（試案）
中学校

研修シート（試案）

Ⅰ－１　発達障がいの特性の理解

◎　ねらい
発達障がいのある子どもの学習の困難さを体験し、その心理や教師の指示の在り方を考える。

１　疑似体験（教師役と子ども役、観察者に役割を分担して実施します）

演習１
※演習例
①　教師役が、次のような長い文章を早口で説明します。

明日は札幌の円山公園に出かけます。７時４５分にＪＲ「余市」駅に集まってください。
余市駅発８時１８分の列車に乗り、札幌駅着が９時３１分、到着後は、地下鉄南北線、東西線を乗り継ぎ、円山公園駅下車、バスセンターまで歩き、そこから円１５番動物園線、円山西町２丁目行きのバスに乗ります。円山動物園前で下車すると、すぐそこに動物園の入り口があります。
動物園に入るときは、私が皆さんに、動物園の地図と入場券を配ります。・・・

②　このあと、教師役が子ども役に質問をします。
・余市駅を何時の列車に乗りますか。
・地下鉄はどこで降りますか。
・何番線のバスに乗りますか。
・動物園まではどこ行きのバスに乗りますか。など

演習２
※演習例
準備：英文（６１ページ参照）

教師役が英文（６１ページ参照）をできるだけ早口で１回だけ読み聞かせます。
読み終えた後、どのような内容だったかを日本語で発表してもらいます。

２　振り返り（発達障がいのある子どもの心理面や教師の指示の在り方で気付いたこと）

研修シート（試案）

Ⅰ－２　実態把握、支援方法の検討

◎　ねらい

実態把握や支援方法を検討し、指導や支援の留意点を考える。

1　実態把握

この項目や内容を参考に、気になる子どもの実態把握をする。

項目	内　　容	該当する場合は○
長所		
がんばろうとしていること		
聞く	全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい	
話す	話しているうちに内容がそれることが多い	
読む	文字は読めても単語や文として読むことが難しい	
書く	板書を書き写すのに時間がかかることが多い	
	細かい部分を書き間違えたりすることが多い	
計算する	計算するのに時間がかかることが多い	
	答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くことが難しい	
推論する	図形を描くことが難しい	
	文章題を解くことが難しい	
注意集中	気が散ることが多い	
	最後まで課題に取り組むことが難しい	
多動性	じっと座っていられずに立ち歩くことが多い	
衝動性	質問を最後まで聞かずに答えてしまうことが多い	
人とのかかわり	相手の感情や立場を理解することが難しい	
コミュニケーション	自分がわからない状況や困っていることを相手に伝えることが難しい	
興味の範囲	興味・関心のある対象が限られ、特定のものへのこだわりが強い	
特異な行動	身体の動きのぎこちなさや手指の不器用さが目立つ	

（参考　「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に関する調査」の項目）

2　支援方法の検討

上の表の項目を踏まえ、支援の方法について検討する。

※　ポイント～当該の子どもにとって、最も困難なことのみに目を向けるのではなく、自立してできることをさらに伸ばす観点から、支援の方法を検討する。

3　振り返り（実態把握と支援方策の検討を通して、留意点として考えたこと）

研修シート（試案）

Ⅱ－１　個別の指導計画の作成

◎　ねらい
個別の指導計画を作成し、書き方を考えるとともに、指導や支援の見通しをもつ。

学　年＿＿＿＿　　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿

子どものよさ（○） 学習や生活上、困難なこと（△）	長期目標 （１年後を目標に）
※記入例 ○　数学の計算問題が速くできる。 ○　見通しがもてると、集中して取り組むことができる。 △　全体への指示を聞き取って行動することが難しい。 △　座席のまわりが乱雑であり、自分の持ち物をなくしてしまうことが多い。	※記入例 ・説明や指示を聞き取って行動できる力を高める。 ・学校生活のルールを守って、行動することができる。

短期目標 （1～3か月後を目標に）	場　　面	指導や支援の内容、方法	評　　価
※記入例 ・集中できる時間が長くなるようにする。	※記入例 ・授業中	※記入例 ・何をするのか、見通しを示し、集中できるようにする。 ・教室の音を減らし、教師の言葉も少なくし、集中できるようにする。	※記入例 ・３０分以上は座っていられるようになってきている。
※記入例 ・持ち物を自分で片付けることができる。	※記入例 ・授業中 ・学校生活	※記入例 ・持ち物の片付け場所を決める。	※記入例 ・少しずつ片付けることができるようになってきている。

２　振り返り（個別の指導計画を作成して、気付いたこと）

研修シート（試案）

Ⅱ－２　個別の教育支援計画の作成

◎　ねらい
個別の教育支援計画について保護者の理解や同意を得るための説明や相談の仕方を考える。

１　保護者に個別の教育支援計画作成の同意を得るロールプレイ

（学級担任役、コーディネーター役、保護者役、観察役に役割を分担して実施します）

※　場面を設定してロールプレイを行ってください。
※　ポイント～子どもの成長に向けて、保護者と共に考える姿勢を大切にしてください。

【場面設定の例】

・授業中、全体への指示を聞き取って行動することが難しい子どもについて、当該の子どもの保護者と２回目の話し合いの場面
・１回目の話し合いで保護者は「特別なことはしてほしくない」と話していた。
・そこで、次のような観点で教育相談を進め、最終的に個別の教育支援計画を作成することについて、同意を得ようとする場面

【教育相談を進める観点】

○　保護者の思いを聞く

○　保護者に支援の内容や方法を提案する

○　お子さんができるようになってきていること、うまくいっていないことを確かめ合う

○　次の支援を一緒に考える

○　これらのことを記録しておくことのよさを話し合う

２　振り返り（場面を演示して気付いたこと）

研修シート（試案）

Ⅲ－１　学級づくり

①　指導や支援

◎　ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

１　取組の交流

項　目	事　例	各項目ごとの学級づくりに関する取組交流
※記入例 もめごとやケンカを少なくする取組	※記入例 暴言を減らすために、学級担任が、教室の隅にビニール袋を貼り付けておき、誰かが言った暴言を担任は短冊に書き、それを子どもたちの目の前で破り、ビニール袋に投げ入れています。	
※記入例 叱り方に見通しをもたせる取組	※記入例 叱ることを最低限に減らし、毅然と叱るため、 ・人の心と体を傷つけたときは、ものすごく叱る ・できることをしないときは、叱る ・名札を忘れたときは、少し叱る など、叱る基準を４月に子どもたちに伝え、それを１年間守ります。	
※記入例 騒がしい教室を静かにする取組	※記入例 どの子も静かに集中して学習するために、「これから『サイレントモード』を始めます。１分です。」と言って静かにする時間をつくっています。また、どの子も静かに集中して活動するために、ひそひそ声でしゃべる時間も指示することがあります。	
※記入例 保護者との信頼関係づくりの取組	※記入例 ４月当初から、教師から見た子ども一人一人のいいところをメモしておいたり、「お子さんのよいところや担任にのぞむこと」などについて保護者アンケートをとっておき、その情報をもとに、家庭訪問や行事等の機会に「お母さん、◇◇さん、よくがんばっています。□□が得意なんですね。」と声をかけることを大事にしています。	

２　振り返り（学級経営上の課題と解決策について、改めて気付いたこと）

研修シート（試案）

Ⅲ－１　学級づくり

②　教師の言葉がけ

◎　ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

１　実践の検討（「言葉がけ」を「好意に満ちた言葉がけ」に変える事例を検討し、子どもへの教師の言葉がけの在り方を整理する。）

	「言葉がけ」	「好意に満ちた言葉がけ」
例１	「またＡ君か。誰かがけがしたら、どうする！危ないって言ったでしょ！何回言ったら分かるんだ！」	「いやなことがあったんだね。まず座りなさい。話を聞きますよ。」
例２	「静かにしなさい！」	「Ｂのグループは静かに待ってるね。」
例３	「この学級は、忘れ物をする生徒が多い最低の学級です！」	「この学級は忘れ物をする生徒は多いけど、授業の集中力は全校で一番いいね！あと、先生からのリクエストだけど、忘れ物をしないようにメモしておくといいよ。」

２　振り返り（教師の言葉がけについて、改めて気付いたこと）

研修シート（試案）

Ⅲ－１　学級づくり

③　障がいの理解

◎　ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

1　子どもたちに、障がいの理解を深める取組の交流

項目	取組事例	各項目ごとの取組交流
※記入例 発達障がいのある子どもが学習や生活を行っていく上で困難なことの体験	※記入例 ○聞いた内容を正確にメモすることの難しさの体験 ○複雑で量の多い文章を読むことの難しさの体験 ○友だちを遊びに誘うのにうまく伝えられず、受け入れてもらえなかった体験	
※記入例 一人一人のよさの理解	※記入例 ○子ども同士が、一人一人のよさについて理由を述べて学級全体に説明する機会の設定 ○子ども一人一人の個人目標を、学級全員が確かめる機会の設定	

2　保護者に、障がいの理解を深める取組の交流

項目	取組事例	各項目ごとの取組交流
※記入例 一人一人のよさの啓発	※記入例 ○保護者会等で、子ども一人一人のよさや違いを認め合う学級づくりを行うことについての説明 ○お便りなどで、子ども一人一人のよさを紹介する機会の設定 ○子ども一人一人に活躍の機会を与える場の設定	

別紙の「子どもたちへ」や「保護者の皆様へ」を参考にし、学級の子どもたちや保護者に説明し、理解を得ておくことも考えられます。

3　振り返り（発達障がいについて、子どもたちや保護者の理解を深めるために行うこと、また、改めて大切にしたいこと）

保護者に対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例

保護者の皆様へ

子どもには、それぞれよさやできることがたくさんありますが、「教科書をうまく読めない」「計算ミスが多い」「会話が一方的である」「気が散ることが多い」など、支援を必要とする場合があります。

こうしたことから、本校では、校内委員会を設置して、特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員全員で必要な指導や支援を行っていますので、御安心ください。

本校においても、例えば、「ふりがなをふる」「計算の手順を分かりやすく示す」「そばについて話をする」など、必要な支援を行っていきたいと考えています。すべての子のよさや可能性を伸ばしていけるよう、一人一人に応じた指導や支援を行っていきますので、一部の子どもへの差別やえこひいきをするものではありません。

「分かりやすい授業づくり」や「互いの違いを認め合える学級づくり」に取り組むことは、一部の子どもだけでなく、すべての子どもに対する指導の充実を図っていけるものと考えておりますので、こうした取組について、御理解と御支援を賜りますよう、お願いいたします。

また、このことについて、御意見や御質問があれば、いつでも電話や手紙、メールなどをお寄せください。

子どもたちに対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例

子どもたちへ

人は、一人一人違います。一人として全く同じ人はいません。

例えば、「足が速い、遅い」「好きな食べ物が違う」などです。

ですから、学校でも、「教科書をうまく読めない」「計算ミスが多い」と感じることもあれば、「友達と会話がうまくできない」「気が散ることが多い」など、先生の手助けが必要なことがあるかもしれません。

先生は、学習が不得意だったり、集団生活が苦手だったりすることに対しては、例えば、「ふりがなをふる」「計算の手順を分かりやすく示す」「そばについて話をする」など、サポートしていきたいと考えています。どの子にも、よさや可能性が伸びていくよう、一人一人に応じた指導を行っていくので、一部の人への差別やえこひいきをするものではありません。

ですから、学級のみなさんも、先生が「互いのよさや違いを認め合える学級づくり」に取り組むことについて、協力してください。また、このことについて、意見や質問があれば、いつでも先生に伝えてください。

研修シート（試案）
Ⅲ－２　授業づくり

◎　ねらい
　通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮について考え、授業づくりで心がけていくことを整理する。

１　授業中の配慮

※　配慮の例で、学校として１つ～２つを重点として定め、全学級で取り組むことが考えられます。
※　配慮の例で、個人として既に取り組んでいるものは□を塗りつぶすなど、自己研修に使うこともできます。
※　授業の展開は、その時間の目標や位置付けに応じて定めてください。

過程	子どもの主な学習活動	発達障がいのある子どもに対する教師の配慮の例
導入	■子どもが何を、どのように学ぶかを見通すことができる。	**◎　興味・関心を高めるよう工夫する。** □　課題を視覚的に理解できるようにする。 □　話す内容を精選し、簡潔な発問、指示をする。 □　考え方や解き方を説明する（ＩＣＴ機器等の活用など）。 □　教師が説明した内容を理解したかどうかを確認する。 □　本時の学習のねらいを示す。 など
展開	■子どもが目標の実現に向けて、主体的に学習することができる。	**◎　集中して取り組めるよう工夫する。** □　考え方や解き方の説明をもとに、取り組むよう促す。 □　しゃべらないで、集中して学習するよう促す。 □　一人で解決することがむずかしい子には、教師が付いて、その子の状況に応じた方法（視覚的支援、操作活動の支援、スモールステップの取組の支援、演示や助言、問答など）で教える。 □　取組の途中で、その子なりのがんばりをほめる。 など
終末	■子どもが学習を振り返り、何を学んだのかを自覚することができる。	**◎　学んだことを理解できるよう工夫する。** □　考え方や解き方をまとめる（ＩＣＴ機器等の活用など）。 □　本時の学習で分かったことを確認する。 □　練習問題への取組を促し、一人一人の状況を確認する。不十分な場合は、その子の状況に応じた方法で教える。 ※　必要に応じて、難易度の違う練習問題を用意しておく。 など

【授業全般を通した配慮の例】
○　教師の発言
・教師の言葉を減らす、好意に満ちた言葉がけとなるよう心がける　など
○　板書
・大事なことは線で囲む、ノートのマスや行に合わせる、色分けする　など
○　プリント
・読みやすい位置で改行する、写真や絵の境目をはっきりする、振り仮名を大きくし、読みやすくする　など

２　振り返り

※　授業実践や授業参観等を振り返って、今後、心がけることなどについて記述します。

研修シート（試案）

Ⅲ－３　校内の連携

◎　ねらい
学校全体で取り組む発達障がいのある子どもへの指導や支援の在り方を検討する。

1　A君への教職員一人一人のかかわり

※　学級の中だけの対応から、学校全体で組織的に対応していくため、教職員一人一人が時間帯によって、どうかかわれるかを考えてみる。

	学級担任	特別支援教育支援員	副担任	教科担任	特別支援教育コーディネーター	養護教諭	
登校時							
授業中							
休み時間							
給食							
清掃							
下校時							

記入例

	担任	特別支援教育支援員	副担任	教科担任	特別支援教育コーディネーター	養護教諭	
登校時	教室で子どもを出迎え、体調等を確認する	玄関から教室までの移動の様子を見守る			各教室を巡回し、様子を確かめる		
授業中		取組のよさを付箋紙にメモしてほめる		必要に応じ、支援する			
休み時間		必要に応じ、支援する	学級全体の休み時間の様子を把握する				
給食	一人一人の安全な給食について留意する						
清掃	必要に応じ、支援する	支援の結果をメモで担任に伝える				掃除の様子を見守り、担任に伝える	
下校時	一日の取組のよさを伝える				各教室を巡回し、様子を確かめる		

2　振り返り（校内全体で支援を行うために心がけること）

研修シート（試案）

Ⅳ－１　個別の指導計画の活用

◎　ねらい
個別の指導計画をもとに、支援の改善やその質の向上について考える。

１　個別の指導計画に基づいた協議

【協議の観点の例】

○　評価

○　子どものよさのとらえ直し

○　学習や生活を行っていく上で困難なことの再確認

○　長期目標や短期目標の妥当性

○　指導や支援の内容、方法の改善・充実の具体策

２　振り返り（協議を通して、改めて気付いたこと）

研修シート（試案）

Ⅳ－２　個別の教育支援計画の活用

◎　ねらい
　個別の教育支援計画を活用した次の校種への引継ぎの仕方について考える。

１　個別の教育支援計画を活用した次の校種へ引き継ぐ際のロールプレイ

（コーディネーター役２名、観察役に役割を分担して実施します）

※　場面を設定してロールプレイを行ってください。
【場面設定の例】
・中学校のコーディネーターが、高等学校のコーディネーターへ引き継ぐ場面

【引継ぎの観点の例】
○　本人の思いや願い

○　できるようになってきたことやできそうなこと

○　保護者の願い

○　これまで取り組んできた環境づくりや支援

○　特に留意すべき点

２　振り返り（場面を演示して気付いたこと）